

鎌倉市介護保険に関するアンケート調査結果概要について

1 調査の目的

第 10 期鎌倉市高齢者保健福祉計画（令和 9 年度から令和 11 年度）の策定に向けて、当該期間中における介護保険サービスの在り方の検討に向けた基礎資料の一つとするため、主に対象者の在宅生活や介護保険サービス、介護者の状況について調査した。

2 調査概要

	令和 7 年度	令和 4 年度
調査対象者	令和 7 年 11 月 1 日時点で、要支援・要介護認定を受けている方（特別養護老人ホーム、介護付有料老人ホーム及び認知症高齢者グループホームの施設に住所がある方を除く）のうち、約 600 人を抽出。	令和 4 年 12 月 1 日時点で、要支援・要介護認定を受けている方（特別養護老人ホーム、介護付有料老人ホーム及び認知症高齢者グループホームの施設に住所がある方を除く）のうち、約 600 人を抽出。
抽出方法	上記調査対象者のうち、下記調査期間中に更新申請または区分変更申請に伴う認定調査を受けた方。	上記調査対象者のうち、下記調査期間中に更新申請または区分変更申請に伴う認定調査を受けた方。
調査方法	認定調査員の訪問、聴き取りによる調査。	認定調査員の訪問、聴き取りによる調査。
調査期間	令和 7 年 11 月 19 日～令和 8 年 2 月 18 日	令和 4 年 12 月 14 日～令和 5 年 2 月 17 日
回収数	601 件	602 件

3 令和 4 年度との比較

両調査結果を比較して、主に各回答の順位の傾向や割合に、有意と思われる変化が見られた問について記載した。（問の中の全ての選択肢を記載しているものではない。）

【A 票】

	令和 7 年度	令和 4 年度
問 5 主な介護者の方の年齢	50 代…30.7% 60 代…23.3% 70 代…14.3% 80 代…22.9%	50 代…27.9% 60 代…25.9% 70 代…14.4% 80 代…21.5%

	令和 7 年度	令和 4 年度
問 6 現在、主な介護者の方が行っている介護等の上位	外出の付き添い、送迎等 …63.7% 服薬…44.1% 衣服の着脱…29.4% 認知症状への対応…27.0% 身だしなみ（洗顔・ 歯磨き等）…23.1% 日中の排泄…20.1% 屋内の移乗・移動…19.0%	外出の付き添い、送迎等 …58.8% 服薬…42.8% 衣服の着脱…29.7% 認知症状への対応…28.4% 身だしなみ（洗顔・ 歯磨き等）…24.6% 日中の排泄…22.4% 屋内の移乗・移動…21.5%
問 7 家族や親族に、介護を理由に過去 1 年以内に仕事を辞めた方がいるか	主な介護者が辞めた…3.0% 主な介護者以外の家族・親族が辞めた…0.9% 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない…84.7%	主な介護者が辞めた…3.1% 主な介護者以外の家族・親族が辞めた…0.0% 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない…80.0%
問 8 「現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス」と問 9 「今後在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」を比較した際の差が大きい項目上位 3 つ	外出同行（通院。買い物など） …14.6 移送サービス（介護・福祉タクシー）…16.2 見守り、声かけ…10.6	調理…14.6 買い物（宅配は含まない） …12.4 掃除・洗濯…10.8
問 11 現在抱えている傷病	認知症…23.1% 筋骨格系疾患（骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等） …22.3%	認知症…28.1% 筋骨格系疾患（骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等） …21.3%
問 13 （住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しているか	利用している…73.4% 利用していない…24.0%	利用している…68.1% 利用していない…29.9%

	令和 7 年度	令和 4 年度
問 14 介護保険サービスを利用していない理由	サービスを利用するほどの状態ではない…31.9% 本人にサービス利用の希望がない…30.6% 家族が介護するため必要ない…8.3% 利用したいが手続きや利用方法が分からない…2.8% 以前利用したサービスに不満があった…2.1% 利用料を支払うのが難しい…1.4% 利用したサービスが利用できない、身近にない…1.4%	サービスを利用するほどの状態ではない…32.2% 本人にサービス利用の希望がない…27.2% 家族が介護するため必要ない…7.2% 利用したいが手続きや利用方法が分からない…2.2% 利用料を支払うのが難しい…2.2% 以前利用したサービスに不満があった…1.7% 利用したサービスが利用できない、身近にない…0.6%

【B 票】

	令和 7 年度	令和 4 年度
問 1 主な介護者の勤務形態	フルタイム…29.6% パートタイム…15.8% 働いていない…48.6%	フルタイム…26.4% パートタイム…17.7% 働いていない…49.0%
問 2 介護の際の働き方の調整等	休暇を取りながら…19.0% 在宅勤務を利用しながら…10.5%	休暇を取りながら…12.6% 在宅勤務を利用しながら…15.1%
問 3 勤め先からどのような支援があれば仕事と介護を両立できるか	介護休暇等の制度の充実…31.4% 労働時間の柔軟な選択…22.9% 制度を利用しやすい職場づくり…19.5% 介護を利用している従業員への経済的な支援…16.7% 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワーク等) …12.4%	労働時間の柔軟な選択…26.1% 介護休暇等の制度の充実…22.1% 制度を利用しやすい職場づくり…20.1% 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワーク等) …12.6% 介護を利用している従業員への経済的な支援…12.1%

	令和 7 年度	令和 4 年度
問 4 今後も働きながら介護を続けていけそうか	問題なく続けていける …29.5% 問題はあるが続けていける …53.3% やや難しい…5.2% かなり難しい…2.9%	問題なく続けていける …22.1% 問題はあるが続けていける …49.7% やや難しい…9.5% かなり難しい…3.5%
問 5 現在の生活を続けていくに当たって、主な介護者が不安に感じる介護等	認知症状への対応…31.1% 外出の付き添い、送迎等 …28.5% 夜間の排泄…21.8% 日中の排泄…18.1% 入浴・洗身…14.5% 屋内の移乗・移動…9.5% 服薬…6.9% 食事の準備(調理等)…23.3% その他の家事(掃除、洗濯、 買い物等)…15.1% 金銭管理や生活面に必要な諸 手続き…8.0%	認知症状への対応…30.4% 外出の付き添い、送迎等 …23.3% 夜間の排泄…21.3% 日中の排泄…17.5% 入浴・洗身…13.5% 屋内の移乗・移動…9.3% 服薬…7.1% 食事の準備(調理等)…25.1% その他の家事(掃除、洗濯、 買い物等)…16.0% 金銭管理や生活面に必要な諸 手続き…6.9%

【C 票】

	令和 7 年度	令和 4 年度
問 2 現在、利用している介護保険サービスについて	訪問介護…27.5% 訪問看護…19.5% 通所介護…45.1% 利用していない…15.8%	訪問介護…26.9% 訪問看護…16.3% 通所介護…40.7% 利用していない…19.4%
問 3 現在、利用している介護事業所の介護保険サービスの内容に満足しているか	非常に満足…54.4% 満足…32.9% どちらともいえない…7.3% やや不満…2.9% 非常に不満…0.2%	非常に満足…40.3% 満足…40.8% どちらともいえない…11.5% やや不満…2.7% 非常に不満…0.7%

	令和 7 年度	令和 4 年度
問 4 認知症の方への取組として必要と思うものは	家族の身体的・精神的負担を減らす取組…50.6% 本人とその家族への相談支援体制の充実…44.0% 認知症の人を地域で見守る体制の充実…33.3% 認知症の人の外出及び社会参加の支援…29.4%	家族の身体的・精神的負担を減らす取組…51.6% 本人とその家族への相談支援体制の充実…46.6% 認知症の人を地域で見守る体制の充実…36.9% 認知症の人の外出及び社会参加の支援…25.7%
問 5 主な介護者の方が、介護以外で自分自身のために使える時間はあるか	ある…41.9% 少しはある…23.3% あまりない…12.8% ない…3.7%	ある…35.5% 少しはある…25.9% あまりない…14.1% ない…2.3%
問 6 主な介護者の方が、自分自身の生活について誰に相談できそうか	子ども…34.8% 配偶者…26.5% 兄弟…24.6% 友人…14.5% 地域包括支援センター…8.6% 親戚…6.7%	子ども…30.7% 配偶者…26.9% 兄弟…21.5% 地域包括支援センター…15.1% 友人…14.1% 親戚…3.6%

4 令和 4 年度との比較に基づく分析・所感

【A 票】

問 5 主な介護者の方の年齢	60 代以上の方の割合は微減しているものの、老々介護の状況は続いている。また、60 代は減少、70 代は横ばい、80 代は増加しており、この傾向は本市における 65 歳以上の方の年代別人口分布の推移と一致している。
問 6 現在、主な介護者の方が行っている介護等の上位	順位の傾向に変化は見られない。身体介護では「外出の付き添い、送迎等」と「服薬」は割合が増加しているが、それ以外は「認知症場への対応」を含めて減少している。A の問 13 で介護サービスの利用割合が増加している状況が伺えるが、介護サービスに頼りやすい内容については任せていこうという方が増えた結果かと推察される。

問 7 家族や親族に、介護を理由に過去 1 年以内に仕事を辞めた方がいるか	過去 1 年間に仕事を辞めた主な介護者の割合は横ばいだが、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が 5 % 近く増加している。前回のアンケート調査ではコロナ禍による在宅勤務の増加等の働き方の変化が伺えたが、近年は介護を抱えた従業員に対する就業先の支援制度の充実が徐々に進んでいると思われ、仕事と介護の両立がさらに推進されている傾向が伺える。
問 8 「現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス」と問 9 「今後在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」を比較した際の差が大きい項目上位 3 つ	「外出同行」と「移送サービス」で特に差が大きく、次いで「見守り・声かけ」となった。外出同行等は単身世帯からのニーズだけでなく、二世帯等であっても在宅勤務中は対応が難しかったり、対応できる場合でも時間を要したりで大変なことから、支援のニーズが高まっているものと推察される。
問 11 現在抱えている傷病	認知症の割合は引続き 1 位となっているものの、その割合は 5 % 減少している。その他の傷病については認知症ほどの大きな変化は見られない。
問 13 (住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しているか	利用している方の割合は 5.3% 増加し、利用していない方の割合は 5.9% 減少している。在宅生活の継続に当たり介護サービスに頼れる内容については、介護サービスにしっかりと頼っていこうと考える方が増加したものと思われる。
問 14 介護保険サービスを利用していない理由	介護サービスを利用していない方の理由として、「本人にサービス利用の希望がない」が約 3 % 増加しており、また、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」や「利用したいサービスが利用できない、身近にない」が微増している。介護サービスの周知や充実に引続き努める必要がある。

【B 票】

問 1 主な介護者の勤務形態	フルタイムの方の割合が 3.2% 増加し、パートタイムの方の割合が 1.9% 減少している。介護を行う従業員への支援制度の充実により仕事と介護の両立がしやすくなったものと推察される。
-------------------	---

問2 介護の際の働き方の調整等	「休暇を取りながら勤務」の割合が6.4%増加しているおり、「在宅勤務の割合」は4.6%減少している。近年、介護を行う従業員への支援制度の充実が進んでいる状況が伺える一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により増加した在宅勤務が、近年再び出勤を求める企業が増えてきた状況も見取れる。
問3 勤め先からどのような支援があれば仕事と介護を両立できるか	「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が9.3%増加しており、Bの問2では休暇を利用しながら介護を行う方が増加していた状況が伺えるものの、ますますの制度の充実が求められていることが分かる。一方で、「制度を利用しやすい職場づくり」が0.6%減少しており、制度を利用する際の職場や周囲の理解が徐々に進んできている状況も伺える。
問4 今後も働きながら介護を続けていけそうか	「問題なく続けていける」と考えている方の割合が7.4%増加し、「続けていける」と考えている方の全体の割合も11%増加している。一方で、「難しい」と考えている方の全体の割合は4.9%減少している。この設問でも、就業先の支援制度の充実等により介護と仕事の両立が進んでいる状況が伺える。
問5 現在の生活を続けていくに当たって、主な介護者が不安に感じる介護等	認知症状への対応は引続き一番高いが、2番目の「外出の付き添い、送迎等」は5.2%増加し、この設問でも外出支援へのニーズが伺える。

【C票】

問2 現在、利用している介護保険サービスについて	「利用していない」の割合が3.6%減少しており、実際にいずれのサービスにおいても割合が増加しており、特に「訪問看護」では3.2%、「通所介護」では4.4%増加している状況である。
問3 現在、利用している介護事業所の介護保険サービスの内容に満足しているか	「非常に満足」が14.1%増加しており、「満足」全体においても6.2%増加し、「不満」全体は0.3%低下している。

問4 認知症の方への取組として必要と思うものは	全体的な割合や傾向に大きな変化はなく、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組」や「本人や家族への相談体制の充実」が上位となっている。一方で「認知症の人の外出及び社会参加の支援」が3.7%増加しており、認知症の方自身の認知症進行予防等に繋がる支援へのニーズが徐々に高まっている状況が伺える。
問5 主な介護者の方が、介護以外で自分自身のために使える時間はあるか	「ある」が6.4%増加しており、「ある」全体でも3.8%増加している。介護サービスの利用割合が増加していることと関連して、介護者自身の時間が確保しやすくなったのかもしれない。
問6 主な介護者の方が、自分自身の生活について誰に相談できそうか	「子ども」や「兄弟」、「親戚」等身近な方の割合が増加している一方で、「地域包括支援センター」の割合が6.5%と減少している。身近な方の割合が増加するのは良いことであるが、高齢者のよろず相談所である「地域包括支援センター」の割合が大きく減少したことについては、今後注意を払わなければならない。